

ゆいびと

コンセプト

シャッター通りになりつつある旧東海道は、隣人や通りの人たちの繋がりが薄れ活気を失いつつある。そこで、各ブロックに集会場を設け容易に地域コミュニティに参画しやすい環境を作り出した。また、表層的に生業が浮き出している掛川に、より家族の暮らしを表現したいと考えたことから、家族、子供の成長と共に建築も育てられるようグリッド形式のフレキシブルなプランとなる。ミニマな現代の旅籠屋は街で補充しあうことで生活をより鮮やかなものに変化させ、人とのつながりを再構築させようと考えている。

暮らし・生業・史跡・伝統を考える

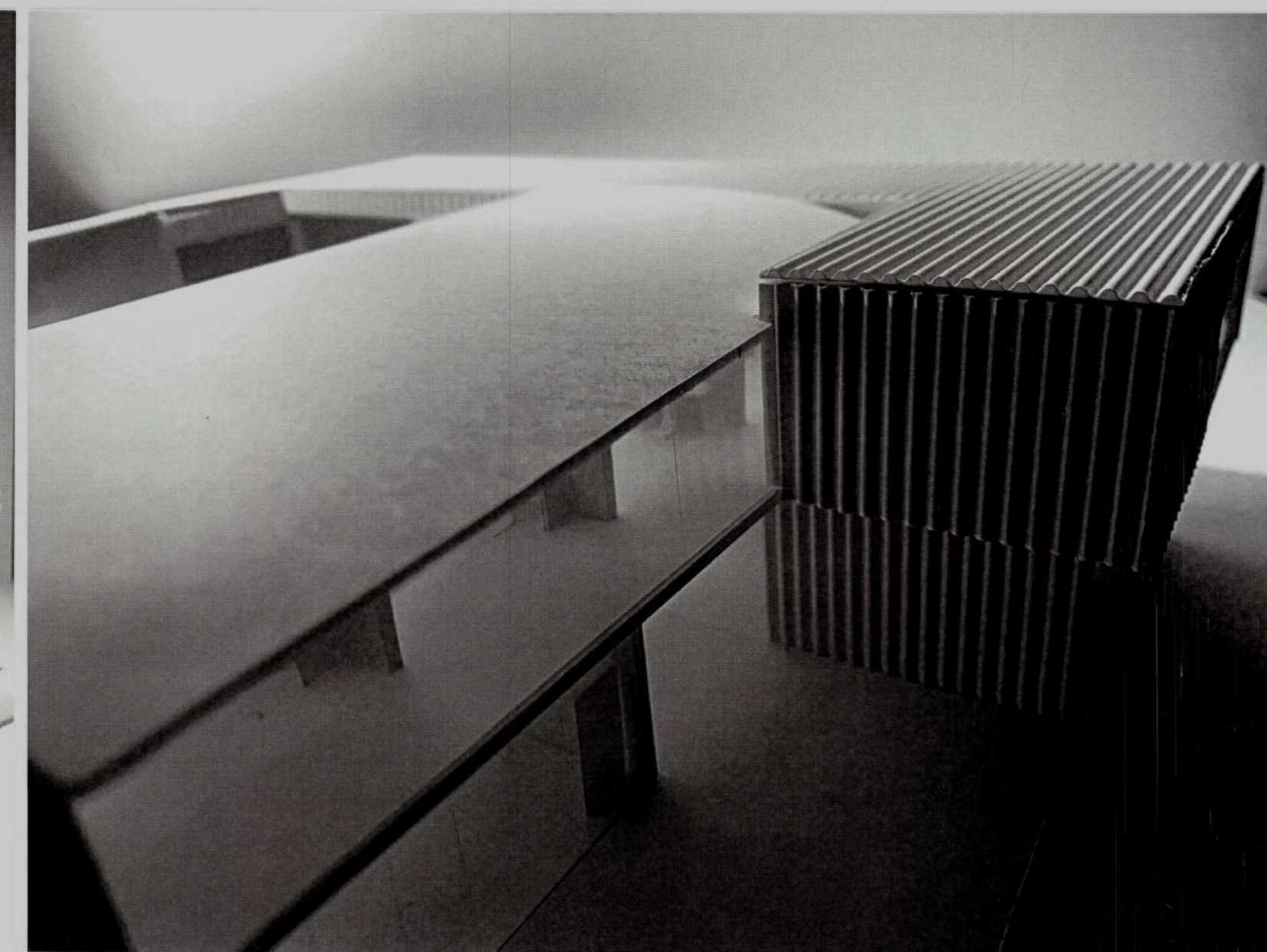
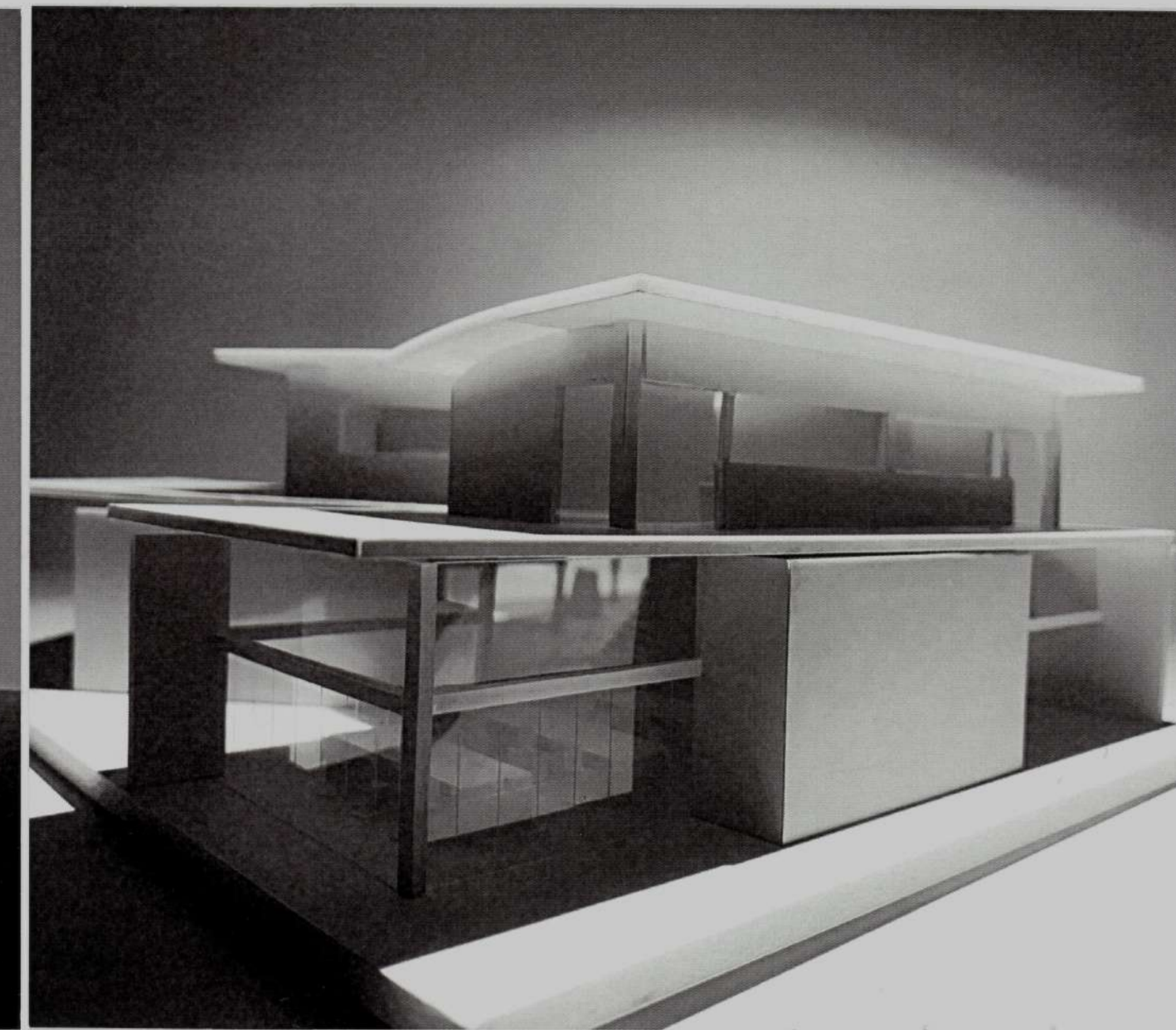
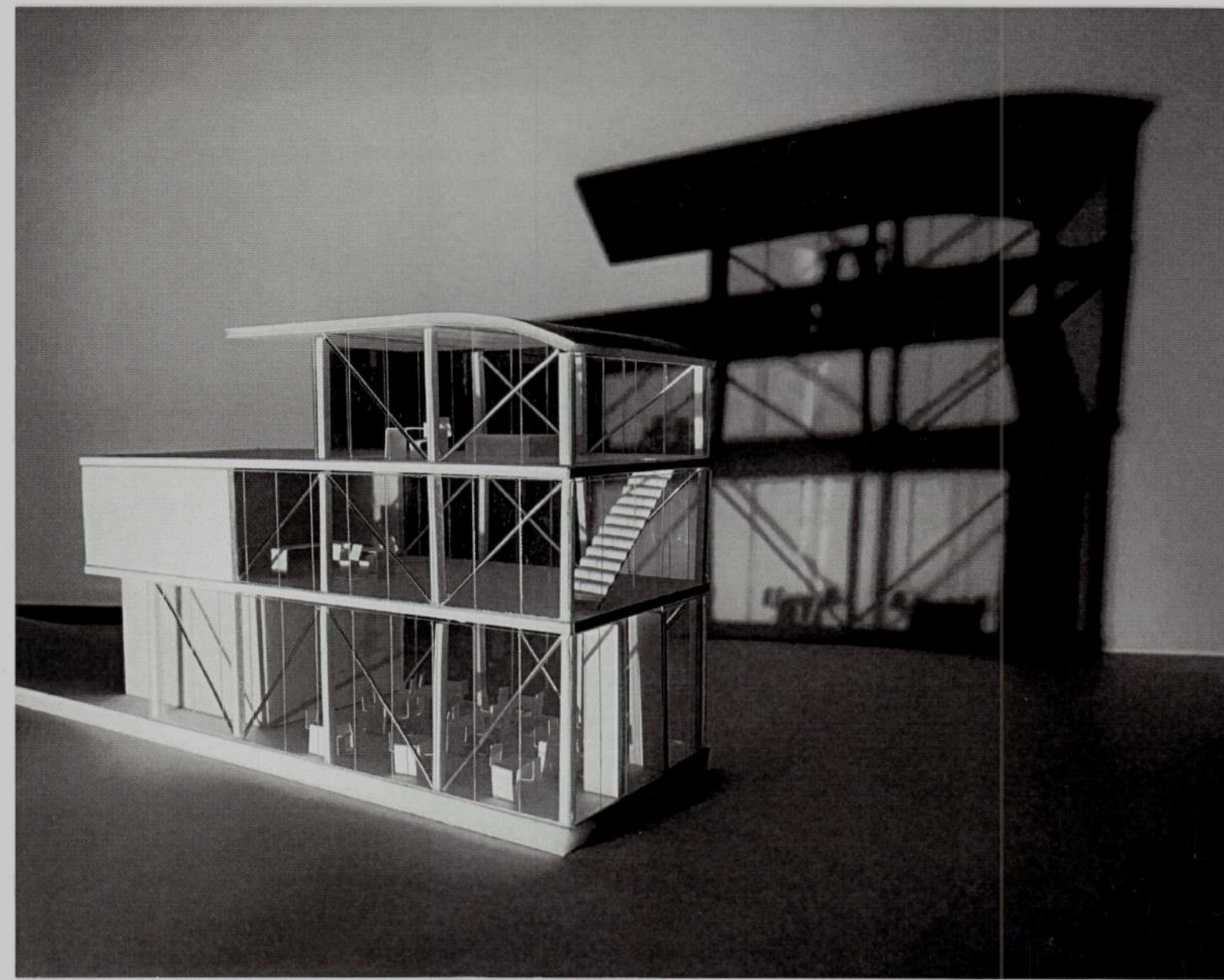
暮らし	伝統
交通機関の充実 車社会 自然環境 歴史や文化が色濃く残る 4つの高校がある 昼間人口は近隣都市と比べても少ない 温暖な地域であり日射量は他と比較しても高い	掛川祭 三熊野神社大祭 小祢里(ちいねり) 遠州祭り囃子 掛川手織り葛布(小崎葛布工芸 自転車2分 徒歩3分) 掛川茶(茶の庭 自転車20分 徒歩1時間) 木質構造 白塗り壁面、瓦屋根
史跡	

東海道五十三次掛川宿(本陣跡 徒歩2分) 掛川城(250m 自転車3分 徒歩5分) 横須賀城跡(16km 自転車1時間5分 徒歩2時間50分) 竹の丸(450m 自転車3分 徒歩6分) 高天神城跡(自転車50分 徒歩2時間20分) 和田岡古墳群(8.8km 自転車34分 徒歩1時間40分) 二の丸茶室(450m 自転車3分 徒歩6分) 大手門番所(300m 自転車2分 徒歩4分)	生業 掛川茶 手織り葛布 卸売業・小売業の事業所数が多い 宿泊業・飲食業の事業所数が多い 製造業では従業員数が最も多い 独立事業者、意欲がある人が多い
--	--

流れを生む

暮らし→子持ち家族の暮らしが充実している→表層的に商業のほうが前に出てきているため見えにくい子供だけでは外を歩くのが危険→東海道のデザインを徒歩、自転車を主要としたものにする
独立事業者の増加 →家だけが職場でもなくなる→短期間の滞在→低コストに抑えたい
コロナの影響による自宅での仕事の増加 (宿泊施設の形態に変化)
→ミニマな宿泊施設にし、街で補充する→人の流れが生まれる
自然環境に恵まれた地域→駅周辺には緑地公園が少ない→子供の居場所を作りたい
地域コミュニティを生む、参画しやすい環境→3か所に用意する
→“人の繋がり”掛川祭りの休憩所としても利用→緑と人間のかかわり方の変化も表している
生業→東海道と駅から白までの十字路の活気→計画を進めていく領域→十字路
製造業、飲食業、卸売業などの多さ
→伝統→お茶 →老舗を推奨→自転車で容易に回れるようにしたい
手織り葛布
→コロナ禍→仕事の形や生活スタイルの変化→ほかの街との違いは
→この4つの分野を掘り下げる必要がある
史跡→旧東海道→子供だけでも安心して歩くことができる
商業的イメージのある強い道→家族層が十字路又は裏ににじみ出てくるような計画をしたい
→自転車→車社会だが市は自転車を推奨→自転車屋の中古品を利用

伝統→掛川祭→“人との繋がり”祭りの風景が町のイメージにも繋がるのではないかと
→計画地の回遊性はかなり重要
緑地→参加、環境、芸術の3つからランドスケープを形成



旧東海道計画

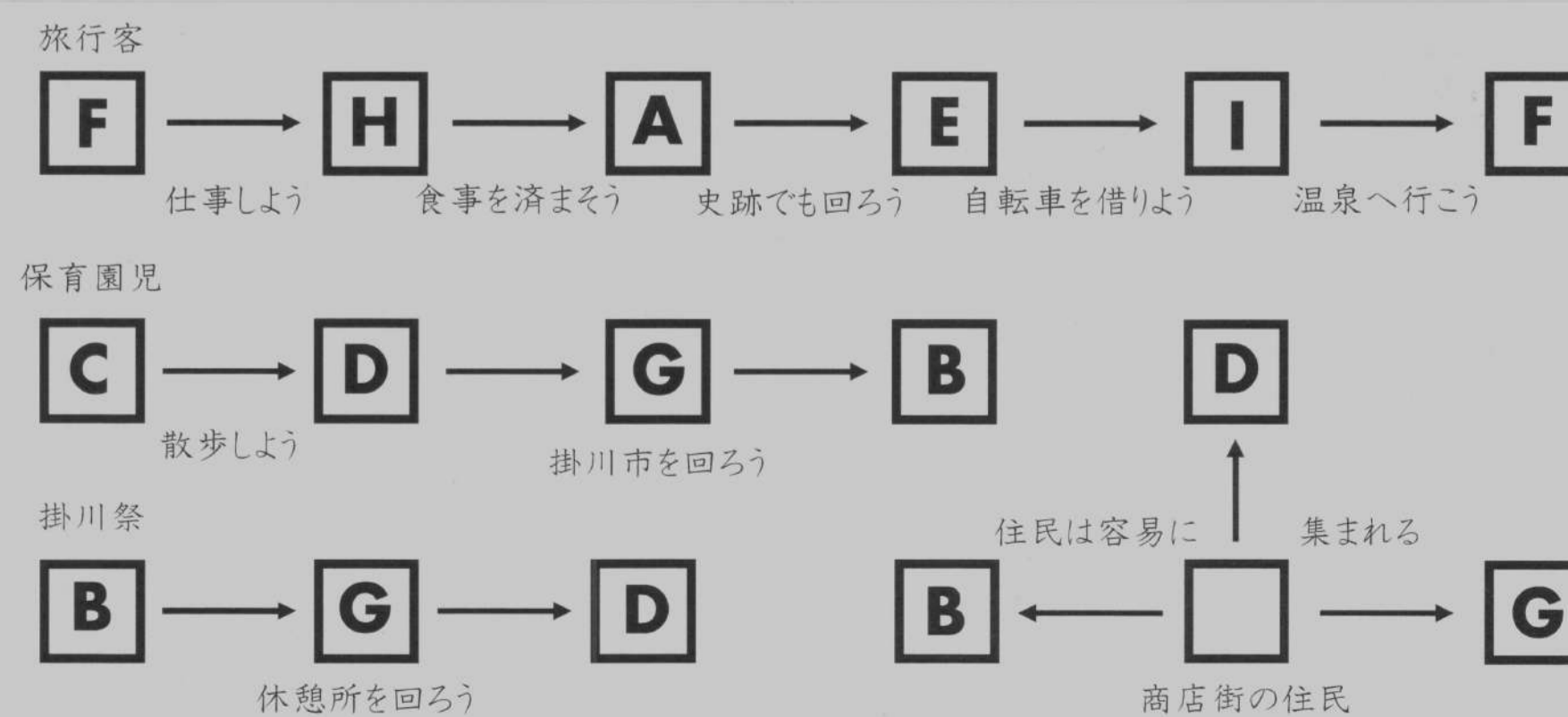


緑地計画



- 敷地A 食堂+住宅
- 敷地B 緑地+集会所
- 敷地C 保育施設
- 敷地D 緑地+集会所
- 敷地E 宿泊施設 +案内所 +歴史資料館
- 敷地F 宿泊施設+温泉
- 敷地G 緑地+集会所
- 敷地H カフェ+住宅
- 敷地I 自転車屋 +コインランドリー +住戸

動線計画



“子育てしやすい掛川市”と推奨するためには、建築も柔軟な対応が必要とされる人口を維持し、また受け入れる体制、建築がその基盤を作るのではないかと
生業と家族をテーマとし、生活の充実が生業に良い影響を与えられるのではないかと
その建築に入る生業と家族が変化したとしても、そのまま引き継ぐことができる

